

平成 29 年度 第 1 回北海道総合開発委員会計画部会 議事概要

1 日 時：平成 29 年 6 月 9 日（金）14：00～15：30（KKRホテル札幌 3階「鳳凰」）

2 出席者：山本委員 畠山委員 大賀委員 中村委員 能登委員（5名）

3 主な発言内容

- 小麦や大豆などの自給率が日本全体では非常に低い。北海道で小麦、大豆、てんさいの生産量が伸びているとのことだが、より一層の生産拡大、消費拡大をしていった方が良い。
- エゾシカ食肉利用に関し、大部分が廃棄されていることから、利用の研究開発が必要。また、シカ肉を食べるということについて、道の方でも消費者への意識啓発が必要。
- 北海道の国際化の観点から、今回の総合計画は非常に進んでいる。一方で、道路標識の英語の併記についてもこれから必要になってくる。地名や観光地などの表記でばらつきが見られると混乱を招く可能性もあるので、ばらつきがないような方向性で進めていただくと良い。
- 災害に関する情報提供の多言語化も必要になる。今後、道としても工夫をしていく必要がある。
- 環境関係では、日本も環境配慮、資源効率ということについて普及啓発が進んでいる状況と認識。北海道でも一生懸命取り組み、現在もそれを踏襲しながらグレードアップしているところだと思っている。
- 普通高校が多すぎるので、高校卒業で即戦力になる資格取得ができるように職業高校を増やしていただきたい。また、普通高校では現代社会にマッチした教育を展開できるよう、北海道がリーダーシップをもって目標をたて、考えるべき。
- 人口減の大きな要因の一つは、地域における産業が確立していないことではないか。北海道として産業というものの位置づけを、何を産業として育てていくのか、ということは今一度、考えてみる必要がある。
- 国内外に対し、北海道として交流人口をさらに深めるような状況をつくり、交流人口が定着して定住できるようなシステムを、道と全道の市町村が連携をする中で構築していく必要がある。
- 北海道の魅力、あるいは北海道の価値をどうやってアピールするか、それがまたアピールではなくて、本物になったということ、外の人間だけでなく道民も実感できるということ、この計画の目標としていただきたい。
- 交通の問題を、単に自分たちが不便だというロジックではなく、北海道の広域連携のインフラとして交通システムを考えると、また別の見方が出てくるのではないか。